

# 緑育会通信 第11号

緑育会事務局  
(プロジェクト推進室)

Te l : 03(3961)0084

Fax : 03(3962)7135

E-mail :

ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

## 「小学校英会話」の時間の一例

神内 喜久代 (東京家政大学緑窓会会長)



平成 23 年度から小学校の教育課程で 5・6 年生に外国語活動「英語」が導入された。小学校学習指導要領では、小学 5・6 年が必修となっているが、栃木県では宇都宮市をはじめ足利、栃木、大田原市等 9 市町の教育委員会管内の小学校では教育特別措置により、1 年から導入し

ている。先ごろ小学校の英語指導について、その一端を知ることができたので紹介したい。

### 1 英語の時間の目標

教育課程編成の具体策、特色ある学校づくりの推進の中で「外国語活動の充実」を次のように挙げている。

・高学年は「外国語活動」として 35 時間、中学年は総合的な学習の時間「国際理解」として 18 時間、低学年は予備学習で 10 時間実施する。

・英語に慣れ親しむために、朝の会や昼の放送等で常時活動を行う。

人とのかかわりの中でコミュニケーションを図るには会話がかかせない。その会話が日本語であり、英語であると捉え、外国語(英語)の「聞く、話す」活動を中心に指導している。国際社会の中で生きる人間育成には、小学校の段階から自国や異文化の理解、コミュニケーション能力、自己表現力などの育成に努めることが重要な課題になってきている。それらを踏まえ、コミュニケーションの手段である英語が重視され、小学校の早い時期から学ぶことで英語の音声やリズムに慣れ、スムーズに 5・6 年生の学習につなげることと、義務教育 9 年間の系統性の強化も視野に入れている。

### 2 指導例

(1)1 年生：時数 1：指導者 学級担任・ALT (外国語指導助手：市教委から派遣)

・活動名：色…会話やゲーム、色を尋ねたり答える表現を使う。

・内容：What's this? It's ～タッチカラーゲーム、カラーバスケットゲーム

(2)3 年生：時数：1：指導者 学級担任・地域ボランティアティーチャー

・活動名：この果物は好き?…英語で〇〇が好きかの問い、それに英語で答える。

・内容：Do you like~? Yes, I do. / No, don't,

(3)6 年生：指導者 学級担任・ALT

単元：時数 4：住んでいるところ…教師の話す英語を聞き場所を尋ねる言い方の理解をする。

内容例：T：Where do you live? I live in…in Utsunomiya.

### 3 指導の効果を挙げるために

(1)職員の研修：学級担任が主となって授業が展開されるので、必ずしも英語を得意とする教師ばかりでないところから、校内研修に力を入れている。授業は ALT や VET と一緒に授業に臨む場合でも、担任が指導の主役であるとの認識をもつこと、楽しく授業ができることをねらい、教材教具の工夫、模擬授業等で指導力の向上を図っている。

(2)宇都宮市教委外国語指導助手の指導：毎週一回と隔週一回来校

(3)ボランティアティーチャーの協力：必要に応じて地域住民の海外在住経験者(英語圏)

(4)英語ルームの設置：英語活動に必要な教材・教具・資料を展示・保管し、児童が英語に親しめる環境づくりと教師が指導内容に応じて利用ができるように工夫している。

また、ここでゲームやクリスマス会などの行事なども行い、ALT や VET により、会話を通して外国の風習、文化に触れる機会にもなっている。

今回、小学校への英語導入の実際を知る機会があり、現職の方々が、児童たちが将来国際社会で活躍する事を願い、新しい教育課程の実践に日々健闘されている姿に感動している。また、これから教職を志す方たちが、専攻科目のみの力だけでなく、英語力もしっかりと身につけて巣立ってほしいとの願いを強くしている。

参考：宇都宮市立新田小・豊郷中央小の事例から

### 【目次】

「小学校英会話」の時間の一例 神内喜久代 (東京家政大学緑窓会会長)	1
平成 24 年度教員免許状更新講習のご案内と開催について 教員免許状更新講習実施委員長 青木幸子教授	2
アドバイスコーナー 造形表現学科准教授 押元信幸	3
教材情報 心理カウンセリング学科教授 相馬誠一	4~5
緑育会総会・設立 5 周年記念教育講演会 プロジェクト推進室長 矢田裕士教授	5
教育時流 教員養成教育推進室室長 青木幸子教授	6
お知らせ 第 20 回(平成 24 年度)教員対象講習会、緑育会事務局からのお知らせ	6

# 平成24年度教員免許状更新講習のご案内

教員免許状更新講習実施委員長 青木 幸子教授

平成21年度にスタートした免許状更新講習は、平成24年度で4回目を迎えます。昨年来、中央教育審議会等において教員免許制度を含む教員養成制度について検討が進められていますが、結論を得るには至っておりません。昨年度に続き、先行き不安定な中で更新講習ですが、私たちは講習に参加された皆様の資質力量の向上に少しでもお役に立つことを願いながら、講習の実施に向けて準備を進めております。

そこで、一般公開に先立ち、平成24年度の免許状更新講習の計画の概要をお知らせいたします。

## 1. 平成24年度更新講習の変更点

### ① 内容

講習は、「教育の最新事情」（必修・12時間）と「教科指導、生徒指導その他の教育内容の充実に関する事項」（選択・18時間）の2領域とも開講いたします。

今年度は、参加者のご要望・実績・教育効果等を勘案し、必修及び選択領域の開講講座の一部について、受け入れ人数や受講対象者、そして講座内容を見直しました。開講講座は、別表のとおりです。内容の詳細は、ホームページ上にてご確認ください。

### ② 講習日程

講習期間は、8月16日（木）、17日（金）、18日（土）、20日（月）、21日（火）の5日間です。

## 2. 講習内容の見直しについて

講習内容の充実を図るため、講習の前後に受講者より提出される「課題認識調査書」「受講者評価アンケート（事後アンケート）」を参考に、内容を見直しました。

平成24年度更新講習の開講に向けて、平成23年度を受講者より寄せられた「受講者評価アンケート（事後アンケート）」を各講座担当者に配布し、講座ごとに「良かった点、反省点」「問題点と改善方法」「講座概要・構成、時間割、担当者等の変更」について検討していただき、「課題認識調査書」の内容も踏まえ、講座内容を確定していただきました。それを教員免許状更新講習実施委員会に諮り、講習内容を決定しました。

10年ごとに受講される免許状更新講習は、参加者にとって新たな知見や技術の獲得につながり、従来とはちがった視点で教材や子ども、同僚、保護者、地域の人々と向き合い、教育活動の充実を図る契機となることをねらいとしており、その目的の実現に少しでもお役に立ちたいと願っております。

過去3年間の更新講習への卒業生の受講割合は、平成21年度13%、平成22年度23%、平成23年度25%と年々増加傾向にあります。魅力的な講座の提供とともに、成長した卒業生の皆様に会えることを教職員一同大変楽しみにしております。平成24年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております

## 第4回（平成24年度）教員免許状更新講習の開催について

平成24年8月16日（木）、17日（金）、18日（土）、20日（月）、21日（火）に、板橋・狭山キャンパスにて、以下のとおり教員免許状更新講習を開催予定です。【文部科学省認定申請中】

内容・申込等の詳細については、文部科学省から認定を受けた後、3月下旬にホームページで広報いたします。

領域	免許状更新講習の名称	開催日 時間数	会場：定員	受講対象者
必修	教育の最新事情	8/16, 17 計12時間	板橋：100名 狭山：50名	全教諭
選択	はじめてのマルチメディア教材作成	8/16, 17 計6時間	板橋：10名	家庭科・理科教諭
	家庭科教育のためのプレゼンテーションソフトを中心とした教材作成	8/18 計6時間	板橋：10名	家庭科教育でプレゼンテーションソフトを活用した授業を行いたい、現在ほとんど利用できていない教諭
	総合学習もしくは家庭科教育での情報機器の高度利用	8/20 計6時間	板橋：10名	総合学習や家庭科においてパソコン等の情報機器を高度利用し、かつ管理も考えている教諭
	科学と人間生活	8/21 計18時間	板橋：20名	小学校教諭，中・高 理科教諭
	家庭科の授業づくりと教材化の視点	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：60名	小・中・高・特別支援学校 家庭科教諭
	小学校教諭実践講座	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：30名	小学校教諭
	保育のリフレッシュとスキル・アップ講座	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：30名	幼稚園教諭
	多様な美術表現の実践	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：15名	小・中・高 全科教諭
	外国語活動指導のための理論と実践	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：30名	小学校教諭
	最新の英語科教育法の理論と実践	8/18, 20, 21 計18時間	板橋：30名	中・高 英語科教諭

# アトバイスコーナー

## 造形教育とワークショップ型の学習観

造形表現学科准教授 押元 信幸

右下の写真は、私たちが昨年秋に長野で「森の鍛冶や」というワークショップをしたときのものです。炉の中で石炭を燃やし、手回しの鞴（ふいご）で空気を送り高温にし、その中に鉄の棒をいれて溶ける寸前まで加熱します。アンビルという角のような鉄の台の上で、加熱され軟らかくなった鉄をハンマーで自由に鍛造する内容でした。革のエプロンをした参加者は、はじめこそ飛び散る火花に尻込みをしていましたが、次第に場の雰囲気や溶け込んでいきました。最後には顔を真っ黒にして、手に豆ができたのもかまわずに、思い通りに動いてくれない鉄と無我夢中で遊んでいました。

平成22年から文部科学省は、「コミュニケーション教育推進会議」を設置し、「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」を展開しています。芸術家と教師の連携によるワークショップ型の授業を実施することで、芸術表現を通じたコミュニケーション教育を推進する取り組みです。また、「まちづくり」や「アート」をキーワードにしたアートプロジェクトと呼ばれるプロジェクト型のイベントや組織が、地域社会の新しいムーブメントとして注目されています。こうしたワークショップ的な学びが、学校や地域社会に徐々に広まりつつあります。両方に共通して言えることはアートと社会が、積極的に関係を持つようとしている点にあります。ここでは、私たちを取り巻く環境の変化とアートとワークショップ型の新しい学習観について概観していきたいと思えます。

### これからの社会に必要な学習観

近年、私たちを取り巻く社会は、工業からサービス業へ、インターネットを利用した情報化社会に移行しつつあります。この先、ますます複雑化する社会にあって、いろいろな価値観を互いに認めあう「多面的社会」になることが課題だといえるでしょう。身近なところでは、かつては地域コミュニティが学校外の様々な教育を自然な形で担っていました。しかし、コミュニティの力が衰えている地域では、子どもたちの放課後は益々管理されたものになっている現状があります。最近何かと話題になる「コミュニケーション能力」は、「多面的社会」で生きていく上でもっとも必要とされる学びの一つといえるでしょう。その能力の会得には、実際にいろいろな人と出会って、さまざまな形のコミュニケーションを体験する必要があります。「他者との関係性」の中で、自分が持っている能力に気づき、それを伸ばすことが効果的だと考えられるからです。

### アートプロジェクト・ワークショップの活動

日本では演劇分野が早くからワークショップを取り入れた活動を行っており、「ワークショップ」という言葉には、その意味合いが強く反映されています。美術分野でも、近年盛んにワークショップを取り入れたアートプロジェクト活動が行われています。アートプロジェクトの実践には「美術（アート）の変化」、「社会の変化」、「人間関係の変化」が背景にあります。以前は個人の視点で捉えられていた美術が、他者との関係という「協同性」の視点から語りはじめられたと考え

られています。今までの「個」だけではなく「関係性」に着目することで、人間とモノの関係、あるいは人間関係を構成し直していくということです。

### ワークショップ型の学習観と意義

ワークショップ型の学習観を理解するには、まずワークショップ自体を知る必要があります。ワークショップの内容は様々ですので、ここでは体験を通して楽しみながら学ぶワークショップという「方法」に着目しましょう。他にもワークショップの特徴は、「答え」を他者とともに作りあげるグループ学習にあります。そういった直接的な体験を通して、人間がもともと持っている「知りたい」、「学びたい」、「つくりたい」という根源的な能動性を回復し、「ほんとうの学び」の「おもしろさ」に目覚める仕組みを作ることがワークショップの方法なのです。また、アートプロジェクトやワークショップの企画側に求められている資質は、「行為」を他者と共有するためのコミュニケーション能力であり、教師や監督の役割ではありません。自分自身も活動に参加し、参加者とともに楽しみ、学ぶ姿勢です。子どもたちを取り巻く環境の変化や社会の変化に伴い、これからの学校教育でも、従来の「できる」、「わかる」の学習観とともにワークショップ型の学習観を積極的に取り込むことが大切になるでしょう。

イタリアのレージョエミリア市はプロジェクト（アートの創造的経験）によって子どもの可能性を引き出す幼児教育が、世界中から注目を集めています。幼児教育の現場にアトリエスタ（美術担当の教師）制度を導入し、保育者と教育研究者と保護者がプロジェクトの記録を元に議論を重ねることで、さらにプロジェクトを発展させている点にあります。そこでの教師の役割は、子ども達をしっかりと見つめ、耳を傾け、子どもがもともと持っている100の言葉を自由に表現出来る環境を整え、見守り、時には助け、そしてその経過を記録することだということです。

ワークショップ型の授業では、子どもの表現を待つ「教えない」勇気が必要です。ただしその勇気は理論と経験に基づく確かなものではなければなりません。そして、アートプロジェクトやワークショップを主催する側が、「大切だと思うこと」を真剣に楽しんでいる姿は、必ず伝染していくものだと思うのです。



鉄の鍛造ワークショップ「火のアートフェスティバル」  
長野県東御市梅野記念絵画館・芸術むら公園

# 教材情報

## 子どもの自殺と予防教育

心理カウンセリング学科教授 相馬 誠一

### 1 子供の自殺の現状

最初に、子どもの自殺の状況について説明します。警察庁発表資料(2011)によると 2010 年の小学生の自殺は 7 人(前年 1 人)、中学生の自殺は 76 人(同 79 人)、高校生 204 人(同 226 人)でした。文部科学省の調査では、小学生 0 人、中学生 44 人、高校生 121 人の計 165 人でした。文科省調査は学校からの報告が

	～19歳 (警察庁)	小学生から高校生(文科省)				計
		小学生	中学生	高校生		
昭和55年	678	10	59	164	233	
60年	557	11	79	125	215	
平成2年	467	5	35	101	141	
7年	515	3	59	77	139	
12年	598	4	49	94	147	
14年	502	3	36	84	123	
15年	613	5	35	98	138	
16年	589	4	31	91	126	
17年	608	3	25	75	103	
18年	623	2	41	128	171	
19年	548	3	34	122	159	
20年	611	0	36	100	136	
21年	565	0	44	121	165	
22年	552					

図表 1. 19歳以下の自殺者数

元になっておりますので、実数では警察庁調査が実数とみることができます。図表 1 の左側は 19 歳以下の自殺者数の推移です。平成に入ってからでも、若干の増減はありますが 500 人～600 人の子どもたちが自殺しています。自殺の要因・動機は複雑に絡み合って決めつけることは危険ですが、注目すべき要因・動機として「学校問題」を 43 人(23.6%)あげています。

「学校問題」の原因・動機の中で「いじめ」を原因として自殺した人数は明確にされていません。2011 年の文科省発表資料によると 2010 年度に複数回答ですが「いじめ」を理由に自殺した児童生徒は小学生 0 人、中学生 2 人、高校生 1 人の計 3 名でした。

子どもの自殺問題は、大人の自殺問題の解消なくして解決できないと考えています。大人の自殺は 2010 年で、32,552 人(男 23,540 人女 9,012 人、警察庁 2011)、2006 年 10 月に自殺対策基本法が施行されましたが、自殺者はそれ以降も 3 万人を超えています。大人が自殺を選択しない社会作りこそが、子ども達も自殺を選択しない社会になると確信します。

### 2 こどもの「心の健康」と自殺予防教育

A 市の B 中学校で、3 件の自殺事件がありました。2 人は亡くなり、1 名は重症で入院しています。学校としても、対応の手立てが分からない状況にあり、校長は、「緊急対応として、いつでも相談できるように校医に精神科医が必要な時代」と力説していました。全く同感です。いまこそ、子どもたちの「心の健康」について最優先で取り組む必要性があります。

子ども達の自殺は、昨日まで元気な子が急に行動化することが特徴とされています。予想がつきにくく、

また、飛び降り、飛び込み、首吊り等の致死率が高いことが多いとも指摘されています。さらに、ここで問題にしなければならないのは、普通の子供達達の「心の健康」が危機的な状況と考えられることです。子ども用抑うつ自己評価尺度(Depression Self-Rating Scale for children)のデータで見ると、B 市の小学 5・6 年生 500 人の調査でも、「よく眠れない」と訴える子が、男子 26.8%、女子 23.1%、「泣きたいような気がする」子が、男子 18.9%、女子 26.9%、「生きていても仕方がないと思う」子が、男子 13.0%、女子 9.1%

#### うつ状態の子ども達 N=男子254人、女子264人

よく眠れないと訴える子

男子26.8%、女子23.1%

泣きたいような気がする

男子18.9%、女子26.9%

生きていても仕方がないと思う

男子13.0%、女子9.1%

図表 2 B 市のこどもの心の健康

生きていても仕方がないと思う」と答えた子が、男子 13.0%、女子 9.1%でした(図表 2)。さらに、子どもたちの死生観の調査では、長崎県教育委員会調査(2005)では「死んだ人が生き返る」と答えた子どもたちは 15.5%、兵庫県生と死を考える会」の調査では、「人は死んでも生き返る」9.7%、「人は死なない」と答えた子が 1.8%でした。子どもたちの死生観や普通の子がうつ傾向の状態を訴えている現状を見過ごすことはできない状況と考えます。

この間、心の専門家として臨床心理士が学校現場に入りましたが、心の健康の基礎的活動として「アセスメント活動」を重点的に行うことが必要と考えます。そのためにも、いくつかの自治体で取り組んでいるような相談員の常勤化は急務の課題と考えます。その上で、子どもたちの実態を把握し、学校全体で子どもの心の健康を進めていくことを優先すべきです。また、自殺予防教育としてのグループアプローチを含め、ストレス対応、命の教育、死の教育を学校教育計画に位置づけスクールカウンセラーや相談員、養護教諭と共に授業に取り組む必要があります。

将来的な展望として、スクールカウンセラーの常勤配置が必要でしょう。アメリカ合衆国等では州によって若干相違はありますが、児童生徒数 400 名から 500 名に 1 人以上のスクールカウンセラーが常勤配置され、さらに教育委員会にはスクールサイコロジストが配置されています。日本においても、スクールカウンセラーや相談員が各学校に 1 名以上配置されることにより、子どもたちが「困ったことがあれば相談員に相談する体制」を早急に作っていく必要があります。前述したように、「人は死んでも生き返る」「人は死なない」と答えた子が多いことから、子どもたちの死生観やうつ

傾向の状態を訴えている現状を考えれば、積極的に自殺予防教育や健康教育を教育の柱にしていく必要があります。

図表3は自殺直前のサインです。自殺は「最大の人権侵害」です。学校教育の中で自殺予防教育を柱に据えるようにすべきでしょう。また、積極的にスクールカウンセラーと共同で授業をしてみるのも一案です。多くの実践がありますが、特別活動や道徳等の時間に人間関係づくりのグループアプローチや自殺予防教育を実践してみることも必要でしょう。ぜひ、直前サインをみすごすことなく実践を積み重ねてください。

東京家政大学心理カウンセリング学科も総力で皆さんの実践を応援します。

※引用参考文献 相馬誠一他編 2012 「いじめ・自殺の対応と予防」学事出版（5月出版予定）



図表3 自殺直前のサイン

## 緑育会総会・設立5周年記念教育講演会

プロジェクト推進室長 矢田 裕士教授

### 「緑窓教育会総会」

本学は昨年、創立130周年を迎えましたが、創立以来、幼稚園教諭を始めとして、小学校、中学校、高等学校、短大・大学、専門学校、塾・予備校などの教育界に毎年、数多くの卒業生を輩出してきました。しかしこれまで、各学科・専攻及び短期大学を卒業・修了して、教育関係の仕事に従事した方々の連携はなきに等しい状態でした。その理由は、それを意図した組織がなかったことにあります。そこで、これまでなかった縦と横のつながりを可能にするような組織を作ることにより、卒業生同士が教育に関する有益な情報を交換したり、教員採用に関する様々な機会・情報を提供し合ったり、講演をはじめとして、各種教育関係の研究会・勉強会、ワークショップ等を開催することを通して、一段と質の高い教育を若い世代に還元でき、本学の教育・研究の向上・発展に寄与することができることとなります。この目的をもって、5年前、本学に「緑窓教育会」が設立されました。

昨年秋に開催された創立130周年の学園祭当日にあわせて、「緑窓教育会」の総会が開催されました。この総会において、「緑窓教育会会則」が審議され、全会一致で会則が承認されました。いよいよ、この組織が名実共に本格的に始動することとなりました。

現在、この緑育会に登録会員数は約300人くらいですが、常時、会員を募っておりますので、まだ未登録の方がいらっしゃいましたら、これを機会に是非、ご登録くださいますようお願い申し上げます。入会資格は、本学の卒業・修了生で、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、短大・大学、専門学校、塾・予備校および行政機関に勤務されている方が対象となります。

### 「緑窓教育会設立5周年記念教育講演会」

当日は緑窓教育会総会に引き続き、栄光ゼミナールより山中亨先生を講演者としてお招きし、「親が知らない子どもの別の顔」---子どもの学習・生活と保護者・教師への提言---、と題した「緑窓教育会設立5

周年記念教育講演会」を開催いたしました。この講演の概要のみを以下にご紹介いたします。

まずは、前提として、いわゆる「ゆとり教育」が始まった1980年代から、バブル時期をはさんで、インターネット社会とも言われる現代に至るまでの時代の変化について概要を話され、その変化が子ども達にどのようなことを感じさせてきたか、また子ども達の心の中はどのように変わってきたかについて、例をあげながら分かりやすく、話しを進めて下さいました。

この急激な時代の流れの中で、確実に子ども達を取りまく、家庭・学校・社会が変化し、それに応じて、子ども達のみならず、親や教師も適切な対応が求められるようになりました。近年、子ども達が疲れてきていますが、その原因のひとつには、急速にグローバル化、インターネット化している現代社会が提示する数多くの情報・もの、選択肢がありすぎ、子ども達は、自分の意思ではなく、やらされ感が蓄積していると思われまます。しかし潜在的に子どもの持つ底力を信じ、いかにしたら、子どもからそれを引き出すことができるかは、周りの大人たち、とりわけ、両親や教師の子どもとの接し方如何で大きく変わってきますという内容の話しを具体的な例を引きながら、講演されました。

子ども達の「心の中」を探るために、山中先生はQOL(= quality of life)尺度による子ども達の生活の質(具体的には、子ども達の身体的健康度、精神的な健康度、自尊感情、家族、友達、学校生活など)について直近の一週間の状況を5段階で評価で、6項目x4問=24問からなる調査を実施し、その調査結果を提示されながら、結果を分析されたものを具体的なグラフをもとに分かりやすく説明して下さいました。その結果にうなづく聴衆も多かったようでした。時代の変化、親の志向・希望する進路、子ども達の学習情勢、中学入試などの実態など、現実に直面している親子、教師にとって、とても意義深く、考えさせられる講演内容でした。

# 教育時流

教育養成教育推進室長 青木 幸子教授

本学創立 125 周年を記念して発足した緑窓教育会（通称、緑育会）も早いもので設立から 5 年が経ちました。昨年の学園祭期間中の 10 月 22 日、創立 5 周年を記念して、緑育会は初めての総会と教育講演会を開催いたしました。その模様は、本号に掲載されておりますのでご確認ください。

総会の開催に向けて、プロジェクト室を中心に規約の検討が行われ、総会で承認を得ましたので、緑育会はようやく開かれた組織としてスタートすることになりました。

規約に定められているように、本会が教育関係の職業に従事する卒業生にとって必要な情報交換が行われ、親睦を深め、スキルの向上に繋がるような会にできるかどうかは、これからが正念場です。

昨年、私は、本通信第 9 号において、本会の 4 年間の歩みを省察しました。それは、私自身が「緑育会通信創刊号」に、「今、緑育会は『発ち』上がりました。今後は現職教員・学生をバックアップするための『営み』をどのように紡いでいくか、緑育会の営みが教育活動に独自の息吹を吹き込むような組織づくりができたら

と大きな夢を描いている昨今です。」と書き記した者の責任として試みました。今、開かれた組織の出発に際して、この言葉を反芻しております。

本会が、教員養成の伝統と実績をさらに強固にし、教育界で先導的役割を果たしうる人材を育成できる組織としての機能が果たせるかどうかは、組織づくりと運営力にかかっております。

組織づくりの第一の課題は、会員の増加です。この「緑育会通信」を受け取られた方には、是非、会員登録をお願いいたします。一年を通じて、本学には多くの教員の求人依頼があります。しかし、会員の中にその要件を満たす方を見つけることが大変難しい状況です。一度退職された方で再就職を希望されている方、教員採用試験に向けて時間講師を希望されている方など、皆様の同期、先輩、後輩など同窓生がいらしたら、是非、本会への入会をお勧めください。そして、様々なご要望・ご意見など、皆様の生の声をお聞かせください。共に組織を「創り上げる」ため、会員の皆様の参画を心よりお待ちしております。

## お知らせ

### 第 20 回（平成 24 年度）教員対象講習会

現職の教員を対象に「今、教育現場で活用できる内容」を提供し続けていきたいというコンセプトのもと実施しているこの講習会も今年で 20 回を数えることになりました。

今年度の開催は平成 24 年 8 月 7 日（火）から 10 日（金）の 4 日間を予定しています。6 月には講座内容等詳細をお知らせいたします。

ご参加は本学卒業生に限らず広く告知しています。

### 緑育会事務局からのお知らせ

緑育会設立 5 周年を機に、昨年の緑苑祭開催期間中に「総会」と「設立 5 周年記念教育講演会」を開催いたしました。その「総会」において、平成 24 年度より会費（3 年で 1,000 円）を徴収することになりました。詳細につきましては改めてご案内いたしますので、会員の皆様方におかれましてはご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



緑育会通信第 11 号、緑育会に関するご質問・ご意見・ご感想・ご要望等を、お待ちしております。

下記の緑育会事務局（プロジェクト推進室）までお寄せ下さい。



緑窓教育会（緑育会）  
ホームページをご覧ください。

- ①東京家政大学のホームページを開きます。  
(<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/>)
- ②「卒業生の方」をクリックします。
- ③「緑窓教育会（緑育会）」をクリックします。

または、  
<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/ryokuiku/>  
と直接アドレスを入力します。

### 緑育会事務局（東京家政大学 プロジェクト推進室）

〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1

TEL: 03(3961)0084 FAX: 03(3962)7135

E-mail: ryokuiku@tokyo-kasei.ac.jp

ご質問ご意見ご感想をお寄せ下さい。